

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2019年 第43週（10月21日～10月27日）

今週のコメント

～RSウイルス感染症～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 さらに減少」

第43週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,744例であり、前週比3.9%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、伝染性紅斑の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.95、1.95、1.43、0.64、0.60であった。

感染性胃腸炎は前週比3%減の581例で、南河内4.81、中河内4.55、泉州4.00、大阪市南部3.06、大阪市西部2.67である。

RSウイルス感染症は前週比17%減の385例で、大阪市北部4.64、北河内3.37、大阪市西部2.89、南河内2.88であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比6%減の281例で、大阪市西部2.44、泉州1.90、堺市1.79である。

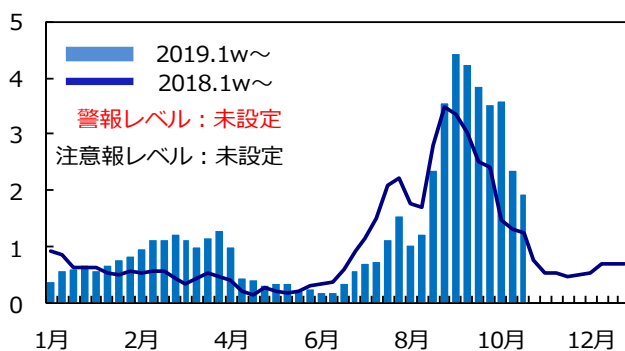
手足口病は前週比15%減の125例で、南河内2.00、三島0.94、大阪市西部0.89であった。

伝染性紅斑は前週比40%増の118例で、南河内1.56、泉州1.25、中河内0.90である。

インフルエンザは10%増の77例で、定点あたり報告数は0.26であった。大阪市西部1.07、堺市0.41、北河内0.31、中河内0.26、豊能0.24である。

RSウイルス感染症

(定点あたりの報告数)



感染性胃腸炎

(定点あたりの報告数)

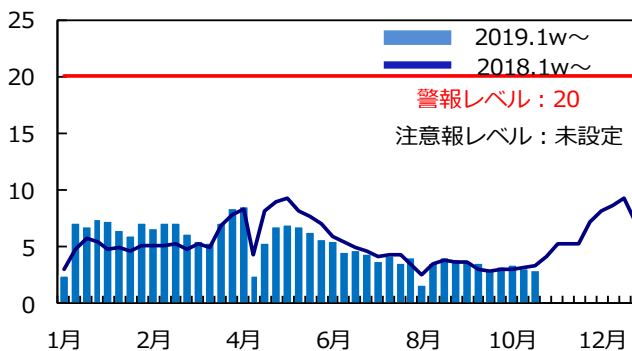


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2019年 第43週10月21日～10月27日）

第43週の順位	第42週の順位	感染症	2019年 第43週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2018年 第43週の 定点あたり 報告数	2019年第43週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.95	3%減	3.39	1歳_16%
2	2	RSウイルス感染症	1.95	17%減	1.24	1歳未満_39%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.43	6%減	2.04	4歳_13%
4	4	手足口病	0.64	15%減	0.85	1歳_30%
5	5	伝染性紅斑	0.60	40%増	0.20	4歳_22%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.26	10%増	0.30	20歳以上_23%

第43週のコメント

～レジオネラ症～ 2019年第43週までの累積報告数は104例です。

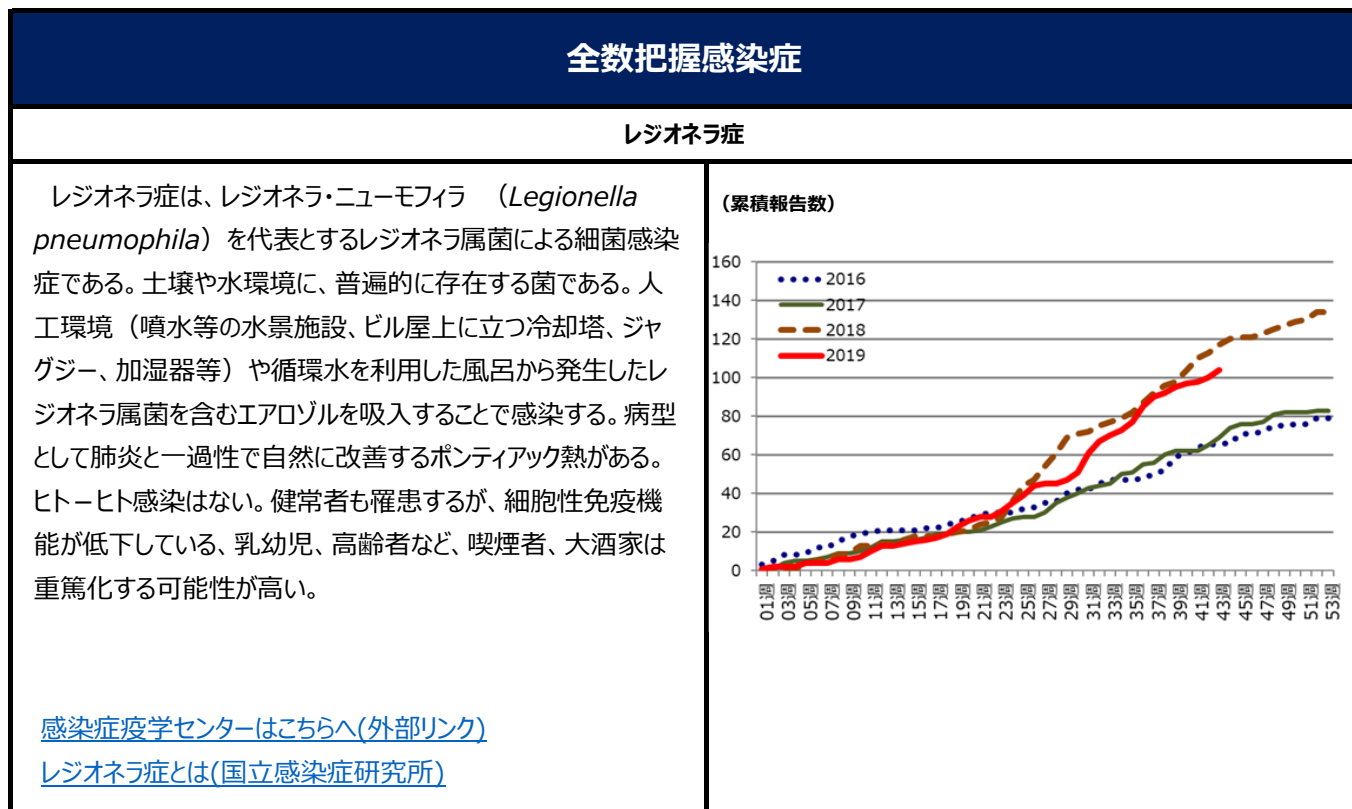


表2. 大阪府全数報告数（2019年 第43週10月21日～10月27日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】発生動向調査>全数報告 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	細菌性赤痢 (<i>S.flexneri</i>)	1								1	8
	腸管出血性大腸菌感染症	3					1	1		1	171
4類感染症	マラリア (熱帯熱)	1								1	4
	レジオネラ症 (肺炎型)	4				2	1			1	104
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3		1		1				1	161
	ジアルジア症	1					1				6
	侵襲性肺炎球菌感染症	3					1	1		1	214
	梅毒	3								3	872
	百日咳	3				2				1	735
結核 (2019年9月分)	結核 新登録患者数：120名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 45名) (府内累積報告数 1,236名、内 肺・喀痰塗抹陽性 482名)										

(2019年10月29日 集計分)